HPJ製作工房・おりほん・2

Twitter300字ss

2014年6月～10月

森村直也
@hpjhal

twitter企画、Twitter300字ssに
提出した作品集です。
Twitter300字ssについてはこちら
http://privatter.net/p/310549

星～萬人生相談所

2014/06

「火星がこの位置にあると強運に恵まれるの。だから大丈夫。チャンスを逃さないで」
画面の星と師匠の言葉に、気弱そうな少女は顔を輝かせる。しまいには自信に満ちた顔で出て行った。
「今年は水星の位置が悪いの。恋人を追っても逃げられる。行動は慎むべきね」
どこか焦り憔悴した様子の男は食い入るように画面を見たあと、肩を落として去って行った。
「次の人は？」
「結婚相談です。相手は優良企業の社員を名乗っているそうですが、嘘です。詐欺罪で検挙歴あり」
「そう。じゃぁ、次はこれを使おうかな」
僕の手元には調査書。師匠の手元にはでっち上げのホロスコープ。
占い小屋という名の萬人生相談所は、今日も貴方の相談を待っています。

笑

2014/07

笑い袋、笑い絵、笑い種。能面は翁か。ＤＶＤは笑い飯。人形はピエロ……何故ピエロ。
箱の中は雑多なモノであふれていた。
笑いを理解しましょうね、とは、確かに私の言葉だけど。
「ちょっと違うかしらね」
少年は僅かに首を傾げる。青白く細いその顔に変化はほとんど見られない。
感情が無いわけではないのだ。事実、今は『困って』いる。
満点を取れば歩き方が大きくなる。花瓶を割れば肩を落とす。怒ったときには机を叩き。
楽しいときには、じっと、そのものを見つめるのだ。
生活臭のない部屋で保護された少年。
与えられたのは死なないだけの食糧だけで。
「……表情筋がついていないのかしらね」
頬をつまんで引いてみたら、イヤイヤと肩を揺らした。

海～街海の底

2014/08

見上げた先のぴかぴか光るいろいろな色の、降り出して来そうな灯りに。
息つく暇もなく行き交う、たくさんの人たちに。
息苦しささえ覚える暑い日の、圧してくるような雨上がりの空気に。
ーー溺れてしまいそうな気さえする。
きっと海の底とはこんな場所を言うのだろう。路地の片隅から通りを見上げさゆりは思う。海を語ったママもさゆり自身も行ったことはないのだけど。
冷たくて、息苦しくて、暗くて……独り。
ママ。零れた声は思いのほかよわよわしくて。
ママ、どこ。泣き出してしまいそうになる自分がいる。
ママ。さゆりを独りにしないで。
返事はなく。
見上げた灯りのずっと先、海面に漂うかのような朧月が、さゆりをじっと見下ろしていた。

海～人海戦術

2014/08

「伝達は以上だ」
「「イエス、マム」」
ブーツの高いヒールをカチリと合わせ、無駄のない直線的な動きで女は男達へ敬礼する。軍服に身を包んだ男達は、声を合わせて敬礼を返す。
「諸君らの健闘を願う」
「解散！」
最前列の男の号令と共に、男達は一斉に回れ右した。
ーー洗濯網、虫網、籠。
手に手に得物を抱え、ネオン輝く夜の街へと散って行く。
ーー鰹節、猫缶、マタタビに、スーパーのビニール袋。
最後の一人は子猫大好きもふもふ毛布を抱え直し、女に再び敬礼するとその場を後にした。
残された女は空を見上げる。煙るような真円の赤月が一つ。
「待っていろ」
一人呟く。どこかで震えているであろう、
「必ずお前を探し出す」
行方知れずの愛猫を想い。

嘘～レンタルライフ

2014/09

結婚して三年。夜は寝ずに待っててくれる。朝はどんなに早くても食事を用意し起こしてくれる。急な飲み会も嫌な顔せず、休前日には……その、なんだ。本当にいい嫁だ。
子供は要らないと思っていたけど、彼女となら。
「契約満了です」
生まれたばかりの我が子を抱いて告げられた言葉に目の前が暗くなる。ちょっと待てよ。レンタルライフ、嫁オプション、延期だ延期！
「お支払能力を超えています」
彼女は言う。淡々と言う。
俺の目の前、手の届くそこで。仕事でも人生でも、払えるものならなんでも払う。だから。
「お支払いは真実・事実に限らせて頂いています」
彼女は笑う。薄らと笑む。
「元より借金として生まれたあなたの何処に本当があると？」

祭～マツリゴト

2014/10

堂で一人、奉納舞の動きを辿る。
ーー姫様は祖神様の血を引く唯一のお方。必ずや。
慣れない動きに汗が散り。
「あっ」
無様な音が響き渡った。
ひくりと思わずしゃくり上げる。躓いた足がじくりと痛む。
「……聞こえないよう」
神の声なんて。
ーー長い雨が来ますなぁ。
聞こえるのは農奴の爺の、民草の。
ーー鳥や虫が天の具合を教えてくれます。
こつりと扉が叩かれる。少女は顰め面を用意した。
「ご託宣を」
「長雨になりましょう。支度を」
一度目を閉じ、大仰な仕草で立ち上がる。平伏す人々を見下ろしながら歩を進める。
ーー悟ればいい。
人の声を聞き、世の全てを知ろう。己の全てを賭けて。
そうして。
ーー生き抜いてやる。
少女のマツリゴトが始まる。

祭～祝祭日に乾杯

2014/10

「祭ってfestival？」
「馬鹿騒ぎか」
「carnivalは」
「謝肉祭」
「celebrate」
「新婚かよ！」
「feverは」
「熱狂」
「祭よか合ってるな」
「仕変フィーバーってか」
「Yes! Fever!」
「ただいま」
「ちょい待て」
「いいだろ夜食ぐらい」
「なんか混ざってる」
「気にすんな」
「日付越えたな」
「申請してねーわ」
「あぁ、俺もだ」
「お前もか」
「じゃぁ、仕事じゃねーな」
「単なるサービス」
「帰れるか？」
「わけないっしょ」
「だな」
「だよ」
「俺、新婚だったんだわ」
「……飲めや」
「飲むか」
「記念翌日に乾杯」
「狙っただろ」
「まさか」
「飲むべ」
「やってられっか」
「俺達の祭日に乾杯」
今日は勤労感謝の日。